

あだち北西地区部会

「安全・安心・住みやすい街づくり & 町会自治会」
 ～花とみどりと水辺のネットワーク構想 & 町会自治会サードプレイス構想～

(推進委員)

浅香 孝子 小池 英夫
 齋藤 きよみ 野口 正広
 馬場 重光 福原 稔

(カウンセラー)

黒澤 保幸
 福田 隆一
 古家 一郎
 横村 隆子



● 報告概要

・ 3年間の活動テーマ：「安全・安心・住みやすい街づくり&町会自治会」

人口構造の高齢化にともなう担い手不足の問題や、少子化による子育て環境の変化等により各地区部会委員から、町会自治会の会員数減少、役員のなり手不足や子供会、PTA 活動の落込みなど、町会自治会活動存続への将来的な不安の声が多くありました。そこで北西地区では、「町会自治会と区民、区の協創による街づくり」をテーマに活動しました。

・ 豊かな「自然資源」と「ひと資源」の活用！

あだち北西地区には、公園、農地、神社など花や緑を楽しめる「自然資源」が多くあり、川の手の水辺もあります。

また日暮里舎人ライナーの開通にともない町会自治会の方々の尽力により約10年前から、当地区で活動されている「花の散歩路」は、区と協働で通勤路を四季の花で彩る町会自治会の活動による「ひと資源」があります。



・ 「やっばこの街好きだわ」と言える街づくりの提案！

地域特性の水とみどり資源を活用して、「花の散歩路」のネットワーク化と拡充を行い、隣地区に大学病院ができることもあり、健康もキーワードにした「健康散歩したくなる街」は、散歩する楽しみを生みます。人が街に出ることで、視線も増えて街の安全性向上にも貢献できます。

散歩路の途中に、足立区や町会自治会、商店街、子供会などの活動情報発信を行える場所を設け、気軽に立寄れる地域交流拠点のサードプレイス「あだカフェ」を配し、災害時に備えた地域コミュニティを深め信頼関係も育みます。そして「やっばこの街好きだわ」と区民が自慢でき歩きたくなる街は、あだちの観光化への魅力も生み出します。

(第1の場：家庭・第2の場：学校や会社・第3の場：サードプレイス＝普段と違う居心地の良い場所)

●3年間の調査研究、活動について

2017年/1年目 町会・自治会活動の問題点についての調査・考察



「今の時代に町会と地域が一体になれる活動は何があるのか？」

「気軽に参加して、地域コミュニティを育める事は何か？」

「地域の方々に地元をもっと好きになってもらい町会自治会の地元の貴重な財産を守る活動に参加してもらえるようになるにはどうしたら良いか」

考察を行った結果は、地域特性を活用した景観形成により、町会自治会を中心に区民、商店街、地元企業など地域全体で地元愛を育める活動を行い、北野武さんが区の広報で「やっぱ、この街すきだわ」と言っているような街づくりを、どのように作り上げて行けばいいかを考えました。

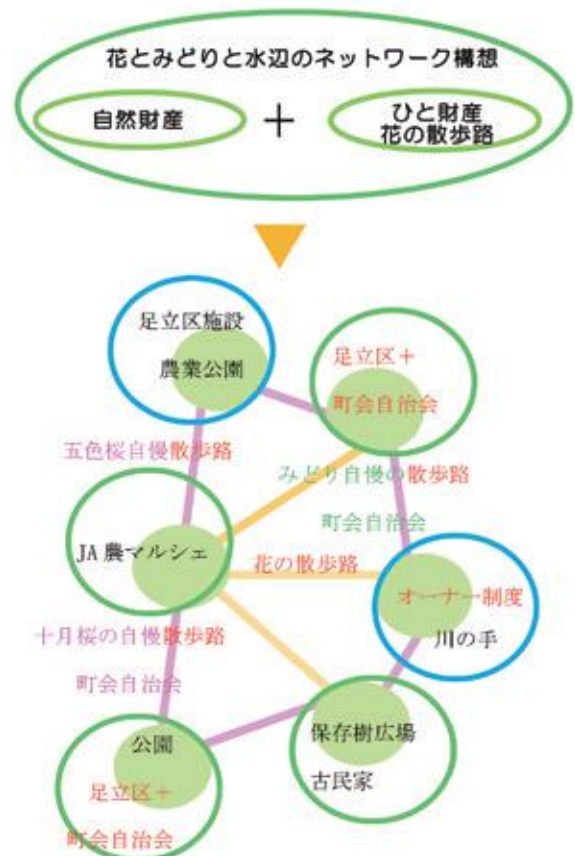
2018年/2年目 「花とみどりと水辺のネットワーク構想づくり」

あだち北西地区は、公園・農地・神寺・古墳等の花や緑と歴史を親しめる所が多く、日暮里・舎人ライナーの開通に合わせ「花の散歩路」という散策ルートが考案されました。

今でもルート近隣の町会自治会の方々には、花・木の見守り・水やりなどの手入れを行っていただいています。それらをつなぎ、町会自治会活動を上手く組み合わせる街づくりが出来ないかと考えました。

面としての地区資源の「自然財産」を「ひと財産で紡いだきた花の散歩路」が線となって、沿道住民が景観美化活動に参加できる機会を促し、散歩で楽しく歩きたくなる、地元を好きになる街づくりができなかと考えました。

「花と緑のネットワーク」の散歩路整備と共に、はるかぜのようなコミュニティバス路線整備や、レンタサイクル「あだちゃり」のシステム拡充、荒川の水上バスなどもつなげると良いと思います。それらの地域参加は、あだち自慢の観光化にもつながります。



・「花の散歩路」支援活動拡大！

花の散歩路活動は、足立区が花と場所を提供し、町会自治会等が維持管理の植替え、水やり、除草を担当しています。

活動している方からは、散歩の方に感謝されたりして、地域貢献の励みになっているようです。

ネットワーク構想は、今活動している町会自治会に加えビューティフルパートナーの方の他にも自宅の玄関前など、区民が地域の景観美化づくりに参加して、地元を好きになるきっかけになるといいと思います。

・活動の見える化の名前も大切！

日本橋の事例ですが、花の資金を提供している企業を「花奉行」水やりなど管理している町会を「水奉行」として、活動の見える化を行っています。楽しい名前付も大切です。



ビューティフル・ウィンドウズ 2017年資料より

・桜資源の観光化

「花の散歩路+桜の散歩路」

地区自慢の桜資源がたくさんあります。いろいろな桜並木も加えて、「花の散歩路+桜の散歩路」として拡充させ、桜自慢の街づくりが観光化できないかと考えています。

「秋も花見に行こう！」

皿沼江北北部緑道の十月桜は、春と秋に開花する東京でも珍しい品種です。「秋の花見」観光の場として、区と協創の「十月桜秋まつり」や「桜の散歩路イベント」などで、区民や足立区を訪れる多くの方々に誇れる憩いと楽しみの場となる地域の桜資源の観光化を提案いたします。

他にも舎人公園のレーガン桜・伊興の寺町と遺跡の歴史散策・寺めぐり、新田ハートアイランドの近代的景観と川の手桜並木・荒川五色桜や「桜の森づくり事業」による応募人気の高い荒川土手のオーナー桜等、地域の桜財産もあわせた「花の散歩路+桜の散歩路」の拡充は、地域景観育成の場にもなると考えました。



皿沼江北緑道の十月桜：春と秋に開花



荒川土手のオーナー桜と記念メッセージ

・桜めぐり散歩路モデルルート/MAP参照

五色桜と共に北西地区の桜は成長し、多品種で多彩です。気軽に利用できる交通手段と共に、モデルルートを作成しました。日舎ライン 舎人公園駅 ⇄ 舎人公園レーガン桜 ⇄ 十月桜の散歩路 ⇄ 都市農業公園 ⇄ 荒川五色桜 ⇄ 日舎ライン足立小台駅 ⇄ 将来（荒川水辺を人気のオーナー十月桜並木を育成し北千住駅まで回遊し「あだち自慢」をさらに拡大させる。）

・子育てしたくなる街と散歩路ネットワーク

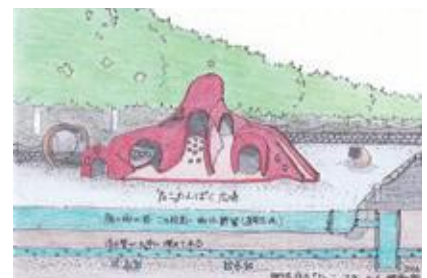
あだち北西地区には訪れて楽しい公園がたくさんあります。

足立区は、23区内1位の区立公園面積を有し、足立区発祥のタコすべり台が区内11ヶ所の内7ヶ所が日舎ライン沿線にあり、おもしろ遊具もたくさんあります。

子供の頃から、花やみどりに親しみ、花の散歩路ネットワークでつながれた公園を、親子での遊具散歩巡りなど子育てしたくなる街づくりも大切と考えています。



足立区のおもしろ遊具



街の水害を守るタコ



赤オニ

2019年/3年目 「あだカフェ・サードプレイス構想」

3年目の活動は「花とみどりと水のネットワークづくり」の散歩路の拠点づくりとして、町会自治会による地域活動の検討を行いました。

サードプレイスとは、地域において自宅や職場・学校などとは別の、居心地のよい第3の居場所を持ちましょうという考え方です。

北西地区を歩いてこの地域に何十年と住んでいながら新たな発見が数多くあり、今さらながら情報発信の仕方に問題があるように感じました。「あだち広報」・「ときめき」などを発行して区は情報発信をしています。区役所に来れば各部署でいろいろな興味を惹かれる小冊子をもらう事ができます。

しかしこれだけでは、多くの区民の方々に地元の魅力ある情報を伝える事は、出来ないと感じました。もっと地元密着の情報発信も欲しいと思います。

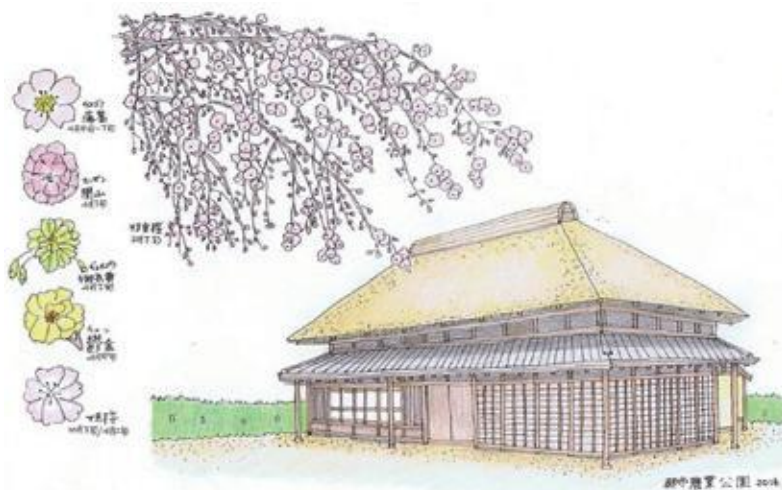
それともうひとつ感じたのが、花の散歩路沿いに休憩できるような場所やお店がほとんどないという事です。四国のお遍路さんの「おせたい」ではありませんが、休憩が出来て色々なコミュニケーションの場になるような所があれば本当に良いのにと感じました。



長〜いスベリ台

そこで私達は、行政と町会自治会、地元商店街、それに街の魅力がアップすることが、将来の自分たちのビジネスにプラスになるであろう企業や、地元の地主さんを巻き込んだ「サードプレイスづくり」を提案いたします。

「町会あだカフェ」「商店街あだカフェ」「地主さんあだカフェ」のような名称を付け、散歩に訪れた多くの人たちが気軽にお茶を飲んだり休憩をして交流のできる拠点となり、「区や地元の情報を発信するあだカフェ」なるものを、運営できたら良いのではないかと考えました。



多品種の桜が見れる都市農業公園に「農桜あだカフェ」を設けたり・・・

・越谷市事例より

越谷市では、地元の商店会と地元の企業が市の支援を受け、旧日光街道沿いに「越ヶ谷サード・プレイス事業」として、地域の使われていない建物を改装してベーカリー＆コミュニティカフェという地域の為のカフェを開設しました。このカフェでは、越谷市の暮らしを楽しむ情報やイベント情報などの発信を行い、地元の人がギャラリー、レンタルスペースやレンタルキッチンなどを使って、個人で自分なりのイベントの開催を行う事も出来るようになっていきます。

■地域インフォメーションセンター&お接待の場



- ・収益があることでより活発に活動
- ・まちなかの身近にある地域自慢のいこいの場
- ・気軽に立寄れる整理された行政情報発信の場

市民+行政

地元
商店街

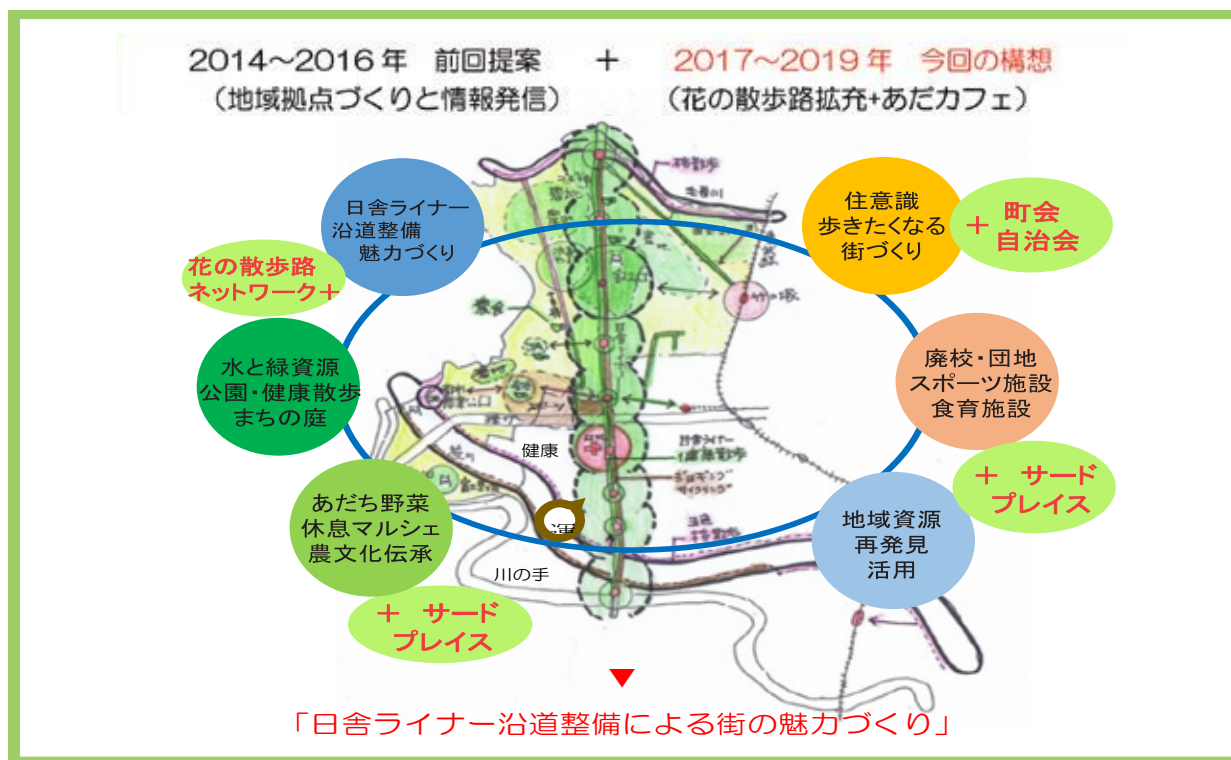
地元
企業

私達の街でも町会自治会の事務所や地元の空き店舗、空き倉庫、駅の高架下などを活用し地元の人が気軽に利用出来る場所（サードプレイス）を作ることが出来ないかと考えました。

・前回（2014～2016年）の提案と今回の提案

あだち北西地区には訪れて楽しい所がたくさんあり、「花とみどりと水のネットワーク」で花の散歩路を気軽な交通手段でつなげて、多くの人に訪れてもらいたいと思います。前回（2014～2016）北西地区日舎ライン沿線の特性を活かした地域拠点づくりと、地域情報発信の重要性をテーマに活動しました。

今回はその地域拠点を再考して町会自治会、地域区民が中心になり、気軽に立ち寄れて過ごせる場所サードプレイスを設け、そこに集まる人たちの中から、新たなアイデアが生まれ、地域が一層活性化されて住みたい住みやすい街に発展していく事を願っています。



・「花の散歩路とあだカフェMAP」

北西地区の「花の散歩路」は、町会自治会の方々の尽力により、人材の「ひと財産」が育成されています。その「ひと財産」と「地域のまち資源」を合わせて、「協創のまちづくり・散歩したくなるルート」をMAP化して提案いたします。

自分たちの街の魅力を再発見して、地元を一層好きになってもらい、魅力ある自分たちの街の財産を創り、守る町会自治会活動により、今以上に安心・安全・住みやすい街づくりに向けて、活性化されて欲しいと思っています。



花の散歩路活動中

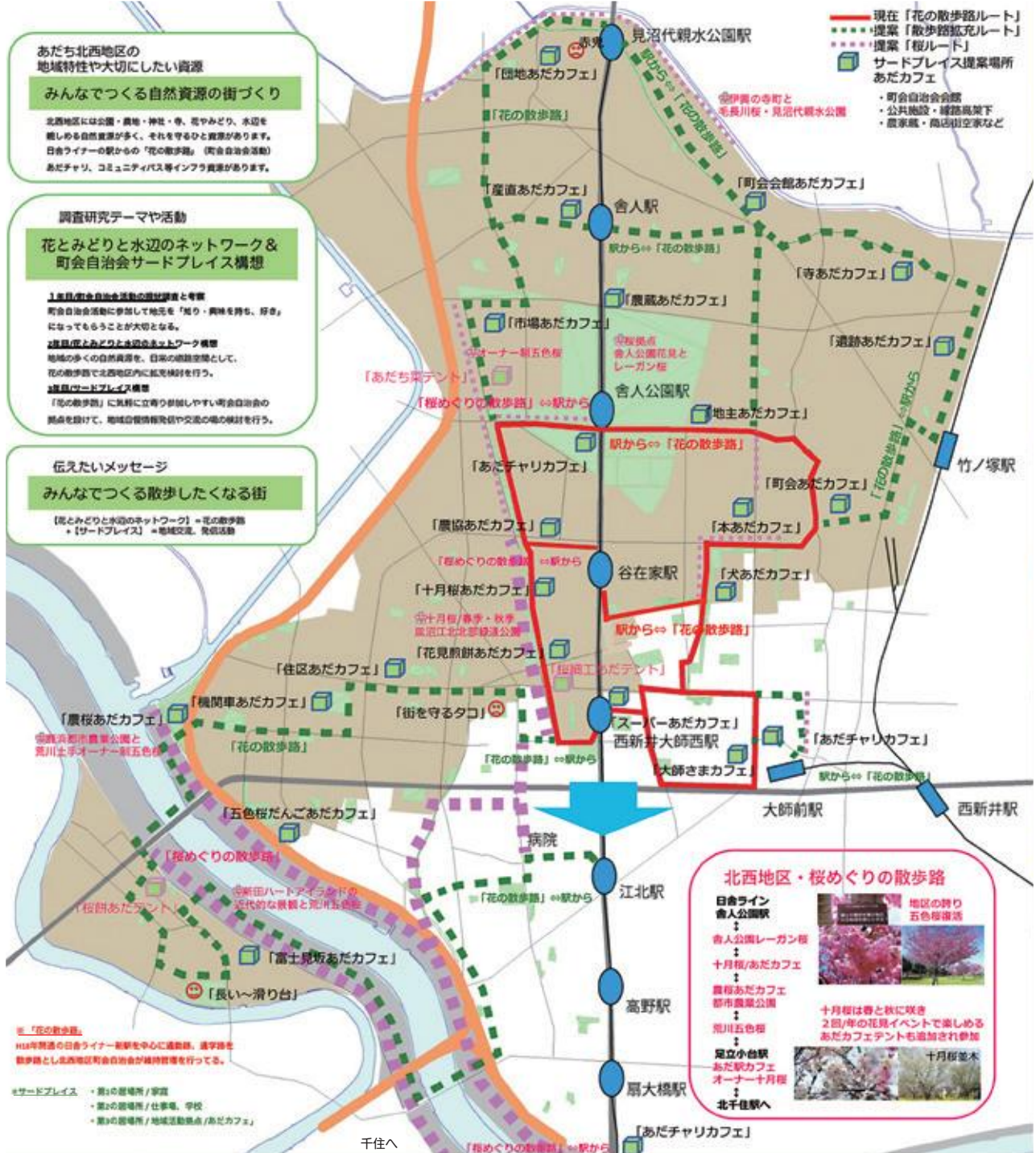
あだち北西地区部会

●まとめ

提案の町会自治会活動のキーワードは、「地域自慢・地元愛を育む」です。区の協創のプラットホームに、あだち北西地区を自慢して応援したくなる先人たちが残してくれた大切な地域資源を乗せ、楽しく活動ができるよう区の交流支援も受けて活用し、区民交流ができれば良いと考えています。顔の見える地域活動は、災害に強い、地域をより元気にする街づくりにもつながります。提案が町会自治会活動の活性化の一助になれば幸いです。

●「花の散歩路とあだカフェ MAP」

街づくり構想提案を具体的にした MAP です。



あだち北西地区部会



あだち北西地区部会研究発表について

地域の資源や資産、 人をつないで魅力を生み出す

素晴らしいですね。夢のあるプランなので、是非こういったまちづくりが実現すると良いなと思いました。そこに向けてのプロセスも見事です。僕は、学生たちに知らない地域に行って、調査をしてくるよう話します。公園でもいいのですが、1日そこにいて、毎日来ているような人に話しかけなさいと。学生は、アンケートをしなくて良いですか?と聞いてきます。でも必要ありません。知らない土地で、その土地を知ろうとするなら、その土地に住んでいて、その土地のことをよく知っている人に、ひとり聞けば大丈夫なのです。自治会、町会の方たちにまず聞いて、そして、すでにあるプランとといいますか、花の散歩路、これを体験してみて、もっと賑やかにできるとか、この地域はもっと良いものがある、それを拡充して新しく計画を実行していく。そして、反省して、さらにグレードアップしていくということです。

新しいものなんてどこにもなくて、皆さんがすでに持っているものがあり、土地の資源や、大切にしているものがあって、それらをうまく結びつける、あるいは、人と結びつける、そんなことの繰り返しで、それが成功した時に、みんなが笑顔になるまち、というのが皆さんの発表から感じるものでした。

ネーミングという意味では、サードプレイス、家とか職場とか普段いるところと違う、ちょっとボーッとしたりできるところのことで、公園や荒川は、まさしくサードプレイスですね。そんな場所があちこちに増えれば良いというのは、まさに実感するところでした。

この地域は、舎人公園のほか、桜の歴史的資産もあります。それらの結びつきができてくると、さらに他の地域からも人がたくさん来てくださるようなポテンシャルのある場所だと感じています。

これからまだまだ変わっていく場所でもあるので、今ある財産を大切に結びつけ、皆さんでさらに磨きをかけられることを期待しております。



鈴木 誠

東京農業大学
地域環境科学部造園科学科教授